



西部センターだより 4号

H28.3.1



失敗の功罪

歌人の東直子さんが、あるエッセーの中で「粗忽な自分がやってはいけない職業が3つある」と書いておられます。最初に挙げられたのは医師と薬剤師です。その理由は、間違いが人の命に直結するからです。最後に挙げられたのは教師でした。人格形成の一番重大な時期において、間違っただけ導きがその子の人生をダメにする可能性があるからとおっしゃっていました。

教師である私には、少しドキリとする指摘でした。何故なら私には、子どもたちの可能性を摘むような間違っただけ教育を一切していないと断言できる自信がないからです。粗忽ゆえにしでかした失敗は、枚挙に暇がありません。そのような私を周囲の先輩教師の皆さんが本当によく助けてくださったのです。今から考えると、よくこんなに失敗をしたものだと冷や汗が出ます。私は、東さんが言われる正真正銘の粗忽な教師だと言えます。そして、己の世間知らずや社会勉強の不足が粗忽に拍車をかけたのです。身なりや電話の対応のみならず、授業の仕方や諸文書の作成など仕事の全てに穴だらけでした。

けれども、こうした粗忽者の私でしたが失敗から沢山のことを学んだのも事実です。ここで、赤ペンの話をしなければなりません。当時は毎日帰り際に授業の様子や感想、出来事などを教務手帳に書き込み、教頭先生に提出していました。教頭先生と校長先生がそれに目を通されます。そして、翌朝にはお二人の捺印と赤ペンの書き込みがされて返ってきます。自分の失敗や過ちへの助言が綴られた赤ペンは、私に勇気と自信をくれました。当然、厳しい戒めの言葉もありました。そして、懐の深いお二人の管理職には今も感謝しています。

また、ご指導された先生方には共通点がありました。それは、けっして声を荒げられないということです。そして、必ずこっそりと注意をされるのです。校長先生自らも私を穏やかに校長室へ招き入れ、子どもに諭すように懇々とお話をされました。相手のプライドを傷つけない声かけの仕方も、失敗体験から学びました。これは、指導監督者となった今大事にしていることでもあります。

人間は、どうしても間違いや失敗を犯します。過ちを犯した場合、それを必要最小限にとどめることはどの職業にも求められます。そして、その失敗から学ぶことを怠ってはなりません。それが一番大切ではないでしょうか。

翻って、当センターはどうなのか考えてみます。まずは、この一年間の業務の課題をはっきりさせる必要があります。そして、失敗や問題点は謙虚に受け止め改善しなければなりません。とりわけ、今年度当センターが実施しました公民館等実態調査では、多くの関係者の皆様に入力方法などで混乱やご迷惑をおかけいたしました。見通しの甘さが原因です。心よりお詫び申し上げます。

これまで研修や講座の中で、参加者の方々に仕事を進める上でPDCA（仕事の質を高めるために、仕事の流れを準備の段階から改善の段階まで四つに分けて考える方法。各段階の英語の頭文字をつなげた用語）の手法が大切だとお話ししてきました。主催者である私たち自身も初心にかえり、こうした失敗から深く学び、次年度に臨みたいと考えています。どうか変わりませず、ご支援ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

その他情報

特別編

公民館等職員研修

西部地区発表会

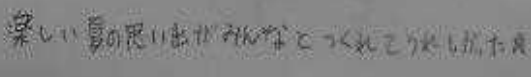
「PDCAサイクルを活かした公民館事業の実際」 H27・12・22(火)9:30~17:00

昨年10月、公民館等職員研修を受講された東・西部合わせて21名の方の発表会が、少年自然の家を会場に行われました。当日は、5会場に分かれての発表だったので、その後西部の受講生から、講座でともに学んだ方の発表を聞いてみたいと声があがり、「西部地区発表会」が開催されることになりました。**受講生の方自らが、企画から運営まで**され、当日は10名の受講生はもとより、応援団の参加もあり、大変盛り上がったものになりました。一つ一つの発表の後に10分間の質疑応答タイムが設けられ、そこでは、活発な意見が交わされ、次につながる一歩となったと思います。

地域を

10人の想い

こんな気づきがうまれるように



にするために

「縁の下の力もち」となり

住民の知恵を引き出していく

「親学プログラム2」の実施状況

授業公開日

H28・1・19(火)

4-③「こんな時、わたしなら・・・」

エピソードを聞いて、子どもとのかかわり方についてふり返り、より良い対応を考えました。

邑南町立
高原
小学校

感想

- ・悩んだらだれでもよいから相談し、こういう会にもどんどん参加したい
- ・感情的でなく、親の気持ちを子どもに伝える
- ・他の保護者さんからの意見で、「まあ、いいんじゃない」「なんとかなるわねー」といったゆったりとした気持ちが、「いいな」と思った

PTA研修会

H28・1・19(火)

3-③「SOSを見逃さない」

子どもが発するSOSのサインにはどのようなものがあるか出し合い、親として大人としてできることを考えました。

邑南町立
石見東
小学校

感想

- ・親も、子どもの心情を受けとめられるよう元気な心をもつ
- ・他の方の意見が参考になり、違う角度から物事を考えられた
- ・子ども一人一人とじっくり向きあう時間をもちたい
- ・親一人だけで悩まない

邑南町
市木
地区

第23回 子育てを語る会(市木地区)

3-④「ネットいじめから子どもを守る」

H27・10・3(金)

ネットいじめの特徴やリスクについて、知っている事や経験から考えていきました。そして親として地域の大人として、どう子どもたちを守る事ができるのか話しあいました。

クロスポート
市木

感想

- ・子どもとの会話を増やし、相談しやすい関係性を築く
- ・子どもたちをインドアにしない・しっかり遊ぼう
- ・話し合うこと、情報を得ること、学ぶことの大切さを知った
- ・子育ては家庭だけでなく、家庭・学校・地域で取り組んでいただけたら、なんと心強いだらうと感じた

PTA研修

H28・1・20(水)

3-①「われわれ大人にできること」

いじめの疑似体験をすることで、いじめの問題を解決する上で大人役が重要であることを知り、予防するためにできる事を考えました。

美郷町立
邑智
小学校

感想

- ・寄り添う
- ・無関心をなくす
- ・大人同士のネットワークをつくる
- ・いじめをおかしいと言える大人になる
- ・子どもを本気で愛す
- ・安心感のある声がけ
- ・どの子どもも大事な子どもたち！



平成27年度

H28・1・30(土)

島根県PTA連合会 環境対策委員会研修会

3-④「ネットいじめから子どもを守る」

環境対策委員会では、「今こそ親のふんばりどころ！」をテーマに、ネット社会やいじめなど・・・子どもを取り巻く問題に親がどう向き合うのかを考えました。

島根県
PTA連合会
環境対策
委員会

感想

- ・親子の会話を増やしていきながら、ネットについての理解を深めていきたい
- ・親子・家庭内・学校・地域とのコミュニケーションの大切さを改めて感じた

大田市立
第一中学校

西部センターだより 4号 2016年3月1日発行

発行所 島根県立西部社会教育研修センター 〒697-0016 浜田市野原町1826-1 (いわみーる 3階)

TEL : (0855) 24-9344 FAX : (0855) 24-9345 Eメール : seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp